

令和 5 年度

事業所名 : グループホームえんじゅの里

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500360		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホームえんじゅの里		
所在地	〒023-0841 岩手県奥州市水沢真城字杉ノ下131番地		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	令和6年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月24日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者様の身体・精神面等の状態を把握し、他利用者様と共に楽しく安心して生活して頂けるよう介護・支援している。玄関ホールでの面会の際には家族様にも協力して頂き、マスク・手指消毒等で新型コロナウイルス感染症予防に努めている。地域との交流として、近隣の小学校の田植え・稲刈りの見学、きらめきマラソンの応援をしている。また、利用者様に楽しんで頂けるよう施設内の行事として、無病息災祭会・運動会・BBQ・敬老会・芋の子会・秋まつり・季節毎のドライブ等様々な行事を行っている。時々職員による「劇団えんじゅの里」の劇を披露し楽しんで頂いている。また、行事開催ごとにブログを更新し家族様等に利用者様の元気な姿を発信している。畑で野菜を収穫して料理し提供することにより季節を感じて頂いている。朝・夕には登下校する学生の姿を施設内から見守りしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中心市街地から車で5分程度南方の田園地帯にある1ユニットの事業所である。周辺には小学校、地区センター、系列の大型産直(レストラン)があり、恵まれた環境下にある。職員で考案した事業所理念を基に、利用者それぞれのその人らしさを大切に、個々のペースに合った生活を支援している。食事は3食手作りで提供し、外出支援も利用者全員に働きかけている。コロナ禍で面会や外出に制約がある中、楽しみ機会の創出として、職員自ら「劇団えんじゅ」を結成し、「傘地蔵」「黒龍と緑龍のお話」等の寸劇を披露し、利用者の笑顔を引き出している。金ヶ崎町にある法人本部で4年ぶりに開催された今年の秋まつりには、家族と一緒に楽しい時間を過ごした。「いわて奥州きらめきマラソン」に今年初めて敷地内から手作りうちわで応援し、運営推進会議でも好評である。地元住民の周知度も高く、地域力のある地の利を活かすことで、災害対策や野菜作り等事業所力の向上がさらに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念(チームウェイ)を事務所に掲示することにより、職員と共有し実践に繋げている。チームウェイは職員で話し合い作った理念である。	法人内での研修を契機に、5年程前に職員で話し合い理念を作成した。「出来ることを大切にする」「気持ちに寄り添いながら話を聴く」「個々のペースにあった生活」がキーワードの3つの柱で構成されている。新任職員へは管理者が理念を説明し、入浴、食事、排泄等の三大介護でも、この姿勢が活かされている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防を徹底し、近くにある小学校の生徒たちの田植え・稲刈りの見学、奥州市きらめきマラソンの応援では手作りうちわで盛り上げた。	従前農協の支所があった場所に事業所があり、地元住民の周知度は高く、複数の近隣住民から野菜の差入れがあったり、今年は「いわて奥州きらめきマラソン」の応援風景を撮影したDVDの寄贈があった。隣接している真城小学校の行事見学の他、朝食時間には、児童の見守りを兼ね、登校風景を楽しんでいる。感染防止のため、コロナ禍前に来所していたボランティアや児童クラブ等との交流は見合わせている。	運営推進会議には住民代表の方も委員に入っていますが、自治会への加入等により地元地域との交流機会や近所付き合いを増やし、事業所事業への理解を得て非常時の協力体制を構築されることを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から相談を受けた場合は、認知症についての適切な対応の仕方や説明ができるようにに努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	きらめきマラソン等では利用者様の応援について運営推進会議にて評価いただいた。評価結果を利用者様にお話し次回の応援もみんなと一緒に楽しめようとして次に繋げている。	昨年度はコロナ禍のため、会議は書面開催とし、返信用封筒を同封し、FAXでも意見を戴いた。今年度、新型コロナの5類変更により、通常開催にこぎつけた。各委員からの意見や要望は多く寄せられ、活発な意見交換が行われている様子が、会議録でも確認できる。写真付資料を委員に配布し、利用者の活動の様子も理解いただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の際には、都度主治医意見書を申請して利用者様の日常生活の自立度を確認している。又、新型コロナウイルス感染症予防のワクチン接種についても、継続して集団接種のことで相談・助言頂いている。	運営推進会議に、市役所長寿社会課の職員、地域包括支援センターの職員が委員として出席している。コロナ禍での会議の開催方法や回数等の確認のほか、日常的な確認や疑問は電話で行っている。要介護認定申請時の認定調査には、所長やケアマネジャーが対応している。介護部門の他、ワクチン接種担当部署とも連絡をとりあい対応している。感染防止のため介護相談員の来所は未だ見合わせている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホームえんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の3ヶ月に1回の身体拘束委員会に参加している。情報を職員間で共有し、身体拘束をしないケアに努めている。帰宅願望が強く家族を探す利用者様には、気持ちに寄り添い施設の周辺と一緒に散歩したり気持ちの切り替えを促す等統一した支援や見守りをし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又、スピーチロックを理解して職員間で統一した利用者一人ひとりにあった声かけ等をしている。	新任職員には、管理者が身体拘束に該当する行為について説明し、適切なケアの提供に努めている。職員全員の研修は、法人主催と事業所企画の年2回行っている。帰宅願望等で外出傾向のある利用者には、落ち着くまでの間、根気強く対応している。日中は原則施錠せず、夜間帯に転倒の危険のある利用者1名が離床感知センサーを利用している。スピーチロックについても、職員間で相互に注意喚起できる環境にあり、利用者には優しい言葉で接している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の支援の中で何が虐待にあたるのかを職員同士で話し合いながら、ケアの方法等が虐待にあたらないように注意を払いながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について社内研修に参加し、制度の理解に努めている。又、家族様に相談され、成年後見制度について説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には入居後の生活についての不安軽減の為に本人・家族様に要望・意見を伺い十分な説明話し合いを行うことで理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置し、家族様の意見・要望を表せるようにしている。又、毎月の家族様へのお手紙に意見・要望をの欄を設けている。家族様からの要望等があった場合には、朝夕の申し送りの他、日誌に記載するなど共有しサービスの質の向上に努めている。	家族が面会や受診介助で来所した際、玄関先で意見や要望を伺っているほか、居室担当者が手書きで作成、送付している手紙の家族記載欄には、個々の利用者に対しての要望が多く記載されてくる。最近では「洗顔後のクリーム(保湿)塗布」の依頼があり、職員間で共有して支援している。利用者は、新聞のチラシを見ながら「〇〇が食べたいなあ」等の食事についての希望が多く、献立や行事食の参考にしている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日朝夕の申し送りや職員会議等で職員の意見・要望を聞く機会を設けている。又、介護ロボットの補助事業では、職員から意見・提案を出し合い業務改善に繋げている。	業務上の意見や提案は、日常的に行われている。職員の提案で、夏場以降、利用者の午後の活動時間充実のため、入浴時間を午後から午前に変更したことにより、職員に余裕が生まれている。また、職員体制の充実を本部に懇願していたところ、今月より2名の職員(1名常勤職員、1名派遣職員)を確保することができた。介護負担軽減のための介護ロボット(離床センサー)を話題にした際、補助事業の話があり、1台設置することが出来、今後も増設予定としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりのやりがいや資格取得の意向を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件を整備している。又、法人としての助成制度の活用を勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの個性や介護支援の力量を把握し、社内研修会に参加し介護の質の向上に努めている。又、働きながら質の向上ができるように他事業所への応援に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	初任者研修に参加することにより同業者との交流を図り情報交換を行っている。又、他事業所への応援勤務を通じてサービスの質の向上や職員のスキルアップに繋がっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントによる情報等を職員が共有し、入居直後は環境の変化による不安な心に寄り添い安心して過ごせるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族様の不安や困っていることに耳を傾けるなどして信頼関係作りに努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを充分に行い「認知症対応共同生活介護」というサービスがご本人にとって適切であるかという視点で行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来ることややりたいことが続けられるように一緒にいき役割りや生きがいに繋がるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にはコロナ禍での感染予防をご理解頂きながら、ご本人の日用品などをお持ち頂くことや、受診対応など共にご本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後、馴染みの人や場所の関係継続はなかなか難しいが、会話の中で話題にすることや入居後から新たに他入居者様や職員との馴染みの関係が構築できるよう支援している。	自宅や馴染みの床屋への外出が可能な利用者と難しい利用者があるが、法事等で外出する利用者のほか、お盆の墓参りでの外出者も3名あった。殆どの家族が近隣在住で、家族のみならず、兄弟や孫等の複数での面会もあり、多い日で7組の面会の日もあったとしている。本年5月以降は、感染対策に配慮しつつ、広めの玄関を利用し、可能な範囲で充実した面会となる様柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性の把握と、入居者様同士の日頃の関わり合いや参加できるレクリエーションの計画等で孤立することがないように努めている。利用者様が声掛けをし、会話に入れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽にできる窓口となれるよう努めている。他施設に移っても連絡・相談を取り合い本人が望む生活を応援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のこれまでの暮らし、ご本人の思いを把握するように努めている。日常生活の会話の中から本人の思いや意向を聞いて職員で話し合い本人に寄り添った支援をしている。	認知症に加えて、精神疾患のある利用者も多く、意志疎通困難で対応が難しい利用者が2名程いる。本人の行動や、わずかな体の仕草や動き、表情から思いを把握し、また気持ちが落ち着くまで我慢強く対応している。事業所理念の「利用者様の気持ちに寄り添いながら話を聴く」ことを実践し、入居を「(家族に)捨てられた」と否定的な話をする利用者には、「(ご家族が)この間面会に来所された」等の肯定的な内容に置き換えて対応する工夫もしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族様などから情報収集し把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を記録に残すと共に現状の把握に努めている。定期的にあセスメントを行い有する能力や課題について現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員で話し合いを持つなか、毎日の申し送りで現状を把握しご本人の課題に合わせた計画の作成・実施・モニタリングに活かしている。家族様面会時ご相談やご本人の日頃の会話から計画に反映している。	入居間もない時期の介護計画は概ね3か月の期間とし、その後は6か月毎に見直しをしている。職員会議では、全利用者のケアカンファレンスを行い、毎日の申し送りでの利用者の変化等を参考にしながら、介護計画を見直ししている。ご家族の意向や意見は、介護支援専門員が来所時に玄関先で確認している。	利用者がより良い生活を送る上で、介護計画作成に当たってのサービス内容の見直しは、職員は勿論のこと、利用者、家族を含めて関係者で話し合い、セルフケアやインフォーマルサービス、アイデア等も盛り込んでみて下さい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や訴え等本人の言葉を記録し、毎日の申し送りで利用者様の状態を把握し計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の希望やニーズを柔軟な対応で提供できるよう努めている。本人や家族の状況に応じてサービスを多様化できるように心かけている。			

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や地区センターの広報や岩手日報新聞などで地域の情報を収集し、できる限りの参加を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居後も継続し家族様対応にて定期受診している。又、様子状態が変わった時等は書面を用いて正確な情報提供ができるようにし、医療機関との関係作りに努めている。	9人の利用者全員が、入居後もご家族の対応でかかりつけ医の受診を継続している。精神疾患等で、日常の詳細な状態説明が必要な利用者については、職員も同行し、薬の調整を把握するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。義歯の破損等が起きた際には、協力歯科医院の訪問歯科診療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化時は職員間で情報を共有し、看護師に相談しながら、早期対応、受診に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者様の状態等、情報提供を行っている。又、経過情報を提供頂き、退院後の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた指針は作成して入居時家族様に説明している。事業所で出来る事を十分に説明し理解頂いている。	事業所としての看取りの経験は無いが、経験職員は数名いる。また系列のグループホームでは看取りの対応を実施しており、研修機会も確保できる環境下にある。利用者の状態低下等に伴い、他施設への移行や入院までの期間、事業所として出来る範囲での対応を行っているが、医療関係者を含めた支援体制の構築には至っていない。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホームえんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	突然の事故や急変に備え、定期的に普通救命講習やAEDの使い方等の訓練をしている。又、職員が応急手当普及員の資格を取得し、救命サポートステーションになっている。事故・急変時の救急要請の際は、職員が落ち着いて行動ができるよう施設内に貼り紙を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと、年2回昼間、夜間を想定した火災避難訓練をしている。火災通報装置作で近隣の住民が駆け付けられるようになっている。又、災害時に備え発電機、非常備品等も準備し、震度5以上の地震の際は、近隣の事業所へ応援に行く体制を整えている	火災や地震を想定した訓練を、経験年数の少ない職員を優先して行っている。今年度、誤報により、通報連絡関係者（地元消防団）の駆け付けや想定外（野次馬）の事態もあり、今後の対応の糧としている。非常時の避難先や、持出物品、季節や天候による配慮、地域との協力体制構築等を策定中の事業継続計画に反映する必要性を管理者は認識している。なお、ハザードマップ上の危険はない。	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴、性格等を理解し、プライドを傷つけないよう、又、その方に合った声掛けをしたり配慮しながら対応している。各居室はプライバシーが守れるようなれんをかけている。	それぞれの利用者の個性や背景を理解しつつ、人生の先輩として馴れ合いにならない様に配慮し、「その人らしさをずっと続けられるよう」との、理念に掲げる目標に向けて実践している。入浴時等の異性介助を嫌がる場合には、職員を交代している。見守りが必要で居室ドアを開けている場合には、入口に暖簾をかけプライバシーを守っている。職員の気になる対応に気づいた際は、場所を移しアドバイスしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の声掛けや会話の中から本人の希望や思いを聞き入れ、自己決定が出来やすい環境作りやサポートを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの一日の過ごし方を理解して、穏やかに自分のペースで生活できるように支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームえんじゅの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を、本人の希望を聞きながら一緒に選んだり支援している。散髪も本人の希望を尊重し、組合理容の方と相談しながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌いを把握し、食べられないメニューの時は、代替品を提供する等工夫している。又、畑で育てた野菜や旬の食材を使い食事を楽しめるよう努めている。食後は、茶碗やテーブル・お膳拭き等その方に合わせた手伝いを一緒にしている。	3食とも手作りで、好き嫌いには肉を魚に、コーヒーはココアにと工夫している。誕生会は、近隣の菓子店から配達されるケーキで、月毎にお祝いしている。刺身や寿司を好む利用者が多く、年越しには握り寿司を提供したり、正月のおせちや土用のウナギ等行事食も提供している。利用者は、食前の皮むき、食後には茶碗拭き等を楽しんでいき、最近では干し柿作り(差入れ)も行った。また、この夏には玉ねぎ500本分を収穫し利用者も作業を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録し、必要量確保出来ているか確認しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は自室にて歯磨きするよう声掛けを行っている。就寝時には義歯洗浄剤を使い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を確認しながら、一人ひとりのトイレのタイミングに合わせ声掛けしている。自分でトイレに行けない利用者様には時間を見て声掛けし、自分でパットを交換できる方には届く場所に置き自立に向けた支援を行っている。	失敗を少なく、自分で出来る行為は自分でいき、不十分な部分を支援するようにしている。食事の前にトイレに行きたくなる等、一人一人の特徴やタイミングを把握しながら、排泄記録を活用し声かけや誘導を行っている。昼夜ともに、オムツ使用者は無く、身体の痛みがあり、排泄までの動作に時間がかかる利用者1名が、夜間のみ居室でポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の麦ごはん、毎日の手作りのヨーグルト、繊維質の多い食事の工夫、こまめに水分補給を行う等、自然排便を促す取り組みを行っている。又、体操やレクリエーション等で体を動かす機会を作っている。それでも出ない人には家族様に相談して下剤の服薬管理をしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせた好みの湯温・湯量等でゆっくりとした入浴時間を提供している。又、週3回以上の入浴の機会を確保・支援している。入浴拒否の方には誘導・声掛けの工夫をしながら無理のないように入浴して頂き、毎日の入浴希望の方には希望に応えるように対応している。	入浴は週3回以上を基本とし、出来るだけ利用者の希望に合わせて支援している。行事のある日を除き、週6回の提供機会を、利用者全員が喜んで利用している。入浴時間の長短や毎日入浴したい等の希望に沿い、入浴剤や季節のゆず湯、菖蒲湯も喜ばれている。午前中に入浴時間を変更したことで「小原庄助さん」の会津磐梯山を唄っている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態や生活習慣を把握し、無理のない範囲での休息を促したり声掛けを行い安心して過ごせるように心掛けている。夜間の就寝の際は、個々のペースを尊重している。又、シーツ類はこまめに交換し、清潔を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬を把握し、誤薬や飲み忘れのないよう確実に服薬できるよう支援している。体調や行動等の様子観察を行いながら、変化のある時にはご家族様に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事を見極めながら、洗濯物たたみやテーブル拭き、茶碗拭き、又、食事の挨拶などをして頂いている。個人での新聞購読や外への散歩の付き添い、毎月行事を設け希望者にはノンアルコールを提供するなどして気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防を徹底し、近くにある小学校の生徒たちの田植え・稲刈りの見学、周辺の散歩の他、季節を感じていただけるよう季節毎のドライブの実施し外出の機会を増やす等支援に努めている。又、4年ぶりの法人本部のイベント(金ヶ崎)秋まつりの見学を家族様と共に楽しんでいる。	天気の良い日は、利用者全員が交代で、事業所周囲を1周する散歩を日常的に行っている。季節の花見や紅葉狩り等のドライブでは、事業所のワゴン車を利用し全員で出かけている。また、隣接の産直(系列)へは、コロナ禍前には出かけることもあった。夏場は涼しい時間を選び外出しているが、冬期間の閉じこもり傾向気味になることが課題となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より、預り金がある利用者様がいます。職員が希望品の購入代行を行っている。又、通院外出の際に欲しいものを購入されている方もいらっしゃる。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様にいつでも電話できるように携帯電話を持っている方もいる。又、家族様より電話があったときにはご本人様とお話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔や家具の配置などですっきりとした動線確保に努めている。又、季節を感じる装飾品で居心地の良い空間作りに努めている。又、室温調整や換気を行いながら、快適に過ごせるようにしている。	ホールの天井は高く天窓があり、広いスペースで、テーブルを4台並べても窮屈な印象は無く、畳スペース脇には小さなテーブルとイスも配置されている。明るい色調の木材が使用され、清潔感もあり、管理者は「毎日気持ちよく過ごせる」と話す。壁面の掲示物もスッキリしており、事務室とキッチンオープンカウンター式で、ホールの利用者と職員の相互確認が可能である。冬期間の寒冷対策として、ホールから居室、脱衣室は床暖房となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様を考慮しながら、座席を固定しているが、余暇の時間には自席にこだわらずに空いている席に自由に座り、他者との関わりが持てるように支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた椅子やタンス、希望される物等を居室に置いて、居心地よく安心して過ごせるような工夫をしている。又、半数以上がテレビを持ち込まれており各自自由に視聴を楽しみながら過ごされている。	居室の備付品は、ベッドと入口側に洗面台とクローゼットが並んで配置されている。テレビを持ち込んでいる利用者が6名、携帯電話は2名である。孫や娘さんが写った家族写真、タンス、机、こだわりの寝具等が持ち込まれ、腹話術の人形を使用し、行事で披露する利用者もいる。以前には、仏壇や位牌を持参された利用者もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に利用者様の名前を提示し、できるだけ自立した生活を送ることに努めている。又、車イスや押し車・歩行器の使用を妨げないよう通路側に置くスペースを確保し安心・安全な生活が送れるよう配慮している。		